

**製品名: PKN ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe87189**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から 12 ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200
分子量	Calculated MW:104 kDa; Observed MW:120 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PKN
別名	DBK; PKN; PAK1; PRK1; PAK-1; PRKCL1; PKN-ALPHA
遺伝子 ID	5585
SwissProt ID	Q16512
免疫原	ヒト PKN の合成ペプチド

**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、プロテインキナーゼ C スーパーファミリーに属する。このキナーゼは、低分子 G タ

ンパク質の Rho ファミリーによって活性化され、Rho 依存性シグナル伝達経路を媒介する可能性がある。このキナーゼは、リン脂質および限定的タンパク質分解によって活性化される。3-ホスホイノシチド依存性プロテインキナーゼ-1 (PDPK1/PDK1) は、このキナーゼをリン酸化することが報告されており、アクチン細胞骨格へのインスリンシグナルを媒介する可能性がある。アポトーシス過程において、カスパーゼ-3 または関連プロテアーゼによってこのキナーゼがタンパク質分解活性化されることは、アポトーシスに関連するシグナル伝達における役割を示唆している。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが観察されている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

## 研究分野

-

## 画像データ



PKN ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した Jurkat 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。